

シーバード設置会合 掛川市

11月27日午後13時半～16時

掛川市役所3階会議室

参加者・掛川市商工観光課長（榛村様）・高野・伊藤

掛川市社会教育課・和泉主査

掛川市危機管理課・石川

掛川体育協会 萩田事務局長・増田

掛川南消防署長（松井様）

御前崎海上保安署 中田対策官

シーバード御前崎 御前崎渚の交番救難所 野口

遠州灘での水上バイクレスキューの必要性、シーバードによる連携の必要性と説明等を行い、設置に向かうにはどのような対応が必要かを野口より説明。有事の際に使用するだけでなく、現状の体育協会を借り受け人となれば親水活動にも役立ち、何も問題なくシーバード活動における全ての趣旨と合致出来る事を提案させていただいた。緊急な必要性はあるが、人材が育つまでの間は緊急レスキュー出動等がある場合は掛川（大東町）にある、ウインドサーフィンショップ・リッパークロススポーツにも御前崎渚の交番救難所に加盟してもらい、全面的にバックアップする旨を伝え、設置後は体育協会指導者を徐々にレスキューアーに育成していく事を伝えた。

掛川体育協会でも水上バイクの借入とシーバード活動の参加に関しては、おおむね了承が取れており、掛川市の対応次第という事で進んでおります。（但し社会教育課に全て一任するという事）

御前崎海上保安署の中田様より我々の活動と遠州灘での水上バイクレスキューの必要性をさらに説明して頂き、参加者の皆様にさらに理解して頂けたと思います。

掛川南消防でも、以前に共同でレスキュー事案があったことや、数日前にウインドサーファーが脱臼でレスキュー騒動になりかける事案があった為、必要性を感じている。消防での予算取りは非常に厳しいのが現状。民間で、その様な施設があることは非常に助かるとの事、同じ流れで危機管理課からもとても良いとの意見をもらえました。

商工観光課もサーフ（海浜）でのマリンスポーツの観光誘致に力を入れる事も思案中の為、賛成。

レスキュー体制があることが、この地区ではマリンスポーツの誘致につながる事を理解して頂けたと思います。

今回の結果

各関連する課においては、おおむね賛成ではあった、とても良い活動という事で、具体的に予算をつくことも可能ではありそうだとこの場を設けて頂いた商工観光の課長もおっしゃっていた。しかし、当方が推薦した借り受けの元となる社会教育課の担当は自分の課が直で予算申請を行うのではなく、危機管理から防災の観点で予算付けを希望しており、この会議の席で即座に対応できるという事ではなく、役場内での持ち帰りとなりました。

今回の会合は打ち切りとなったが、掛川市内部での受け入れ部署等の検討がされ、うまくいけば来年度設置に向け良い方向に動く可能性が十分にあると思われます。

掛川市には相良シーバード視察の際に掛川を視察して頂く事を進めさせていただきました。

別件で大東マリーナ使用に関する案件がでました

現在、不法にスロープを使う輩がいるので、チェーンを引きカギを使い施錠しているのでスロープを自由に下ろせない状況である。今後、緊急出動を行うためにもカギを借りる許可をとり、手配をする必要がある。